上島の文芸

双葉吟社【岩城】

砂浜の打ち寄す波の夏めけり　児島　泰

夏めきぬ多摩連山の白き雲　伊佐　幹男

夏めくや瀬戸に浮かべし帆かけ舟　林　七重

花言葉忘れし母にバラ一輪　古林　幹枝

薔薇一輪挿して明るき老の部屋　山元　征子

あと一鍬に力込めたる日永かな　森本　伸子

夏めきて母退院の嬉しさよ　森本　和佳

夏めきて素足感触此の渚　田名後篁雨

帰路仰ぐ積善山眩しく夏めけり　幸本　孤燈

第四回佐藤鬼房顕彰全国俳句大会 照井　翠特選　ジュニアの部 入選

◇すっぽりと大根抜けたる楽しさよ　弓削高校2年　藤田　悠希（平成23年3月20日）

試合結果

■第24回今治市長杯バドミントン大会（5月22日　今治市営中央体育館）

【3部　女子シングルス】
第三位　金本　紗貴（弓削高校）
ベスト8　福田　真梨（弓削高校）

【4部　女子シングルス】
優　勝　小田　萌子（弓削高校）
ベスト8　田窪　千暖（弓削高校）
第三位　金本　紗貴（弓削高校）

【4部　女子ダブルス】
優　勝　小田　萌子（弓削高校）
田窪　千暖（弓削高校）

■第26回坊ちゃんオープンバドミントン大会（4月9日・10日　愛媛県総合運動公園体育館）

【3部　女子ダブルス】
第三位　幸山　咲絵（YBC）
村上　美春（YBC）

【5部　女子シングルス】
ベスト8　小田　萌子（弓削高校）
ベスト8　田窪　千暖（弓削高校）

【5部　女子ダブルス】
第三位　小田　萌子（弓削高校）
田窪　千暖（弓削高校）

第十二回虚子・こもろ全国俳句大会 佳作

◇キラリ光りし先生のサングラス　弓削高校2年　小林　佳博（平成23年4月29日）

◇けあらしの海面切りさく祖父の船　弓削高校2年　蓼原　彰吾

平和を仕事にする。陸・海・空自衛官募集！

個人の希望能力に応じて選べる進路（すべての種目受験可能・受験料無料）

募集種目	種目の概要	応募資格	受付期間	1次（学科）試験 時期	1次（学科）試験 場所（予定）
一般曹候補生	曹となる自衛官を養成するコース。入隊2年9ヶ月以降、選考で曹に昇任。	18歳以上 27歳未満 現在高3生含む	8月1日（月）～9月9日（金）	9月17日（土）	今治市役所 市民会館
自衛官候補生	任期制の自衛官として任官する前に、自衛官として必要な基礎的教育訓練に専念するための新しい採用制度です。				
航空学生	海上・航空自衛隊のパイロット等を養成する。高校等卒業後、最も早くパイロットになれます。	高卒（見込み含む）21歳未満		9月23日（金・祝）	松山駐屯地

★看護学生、防衛大学校学生、防衛医科大学校学生受験に関するお問合せも下記までどうぞ！
《申込・問合せ先》自衛隊今治地域事務所　TEL/FAX共通　0898-33-0038
ホームページ　http://www.mod.go.jp/pco/ehime/

かみじま歴史探訪

シリーズ・史料が物語る郷土の歴史④

内海の交通と上島町の島々

瀬戸内海のほぼ中央部に位置している高井神島に灯台が設置されたのは、九十年前の大正一〇年です。現在も役割を果たし続けています。この島に烽火台が設けられたのは、はるか以前の七世紀でした。『新居浜市史』（昭和三七年版）を見てみましょう。

瀬戸内諸島に烽燧（ひうち）を設置したのは、天智天皇即位四年長門の彦島城、六年…越智郡大崎島、平市（へいち）島…平市島、高井神島の両烽は、一度西方の相図を望受すると、すぐ煙火を揚げる。順次東方に継ぎ伝えて都へ送る…平市島は燧（ひうち）島、高井神島は高火上（たかひかみ）の島、氷見は火の見であって海洋を燧灘という語源は烽燧（ひうち）から起こった。

天智天皇が在位されたのは、西暦六六一年から六七一年です。そのころには灯台の元祖のようなものが、高井神島に出現していたのです。弓削島の浜都の海岸に続いている燧灘には、豊かな海の恵みと共にこうした歴史が秘められているのです。また久司浦の道路脇にも、貴重な史跡案内が建っています。火山（宇多城跡）

（弓削火山（宇多城跡））

中世の頃、宇多源次兵衛が…宇多城砦を築いたと伝えられる所、ここはその二の丸に当る。時移って江戸時代、領主参勤交替や国使貴賓の内海航行の上り下りには鞆港から松山藩生名村、岩城村への相図烽火揚げの場所だったため、今に島民は此の丘を火山という。

松山藩領の越智島十七ケ村の嘉永年間の実態をまとめた『越智島旧記』には、生名村と岩城村の狼煙場について次のように記されています。

生名村　庄屋助九郎

一、しの浜山狼煙場　庄屋所より道のり十五丁

右は太守様御帰城の節、備後の田島口へ御船見掛け、此の所にて狼煙相立て、岩城村古城山へ渡す（後略）

岩城村　庄屋孫衛門

一、せえ狼煙山　庄屋所より道のり四丁、右同断、御帰城には甘崎村古城山へ渡す（後略）

このように当時は、芸州藩領の田島から生名・岩城・大三島（甘崎）へと狼煙がつながれています。参勤交替で江戸に向かうときは、逆の順序です。藩主の乗船が通過する際には各島々から舸子（かこ、乗り組み要員）が出動しています。ときには松山藩主の乗船が入港して宿泊することもあった岩城港は、送迎が大変でした。松山藩の物語史（実録物）と言われている『伊予名草』の一節を見てみましょう。

享保二十年…五月二十三日江戸表御発足…六月十六日大坂に御着、それより三日陸地にて室津より乗船有り。召し船は万歳丸、乗り替えは長生丸並びに大縁丸・小縁丸は黒船にして…右翼丸・左翼丸は引き船として召し船の左右にある。御供船は数十艘…それより領分岩城に着船…

これは松山藩の家老奥平久兵衛が松山藩主を岩城の本陣で謀殺しようとしたという『伊予名草』の一節です。『伊予岩城島の歴史』（第三章江戸時代）の「御座船」の部には、次のように生き生きと出航の状況が伝えられています。

「おたちい…」ゆったりと、藩主の御座船が岩城港のガンギを離れた。「ドーン」荘重な余韻を残して太鼓の音が海面にひびく。と、それを合図に城の鼻の松の緑の上を一筋、狼煙の煙がはしる。御座船をひく漕ぎ船が十艘、四人ずつの水主を乗せて一斉に沖へ向かって漕ぎ出す。そのあとを、なお十艘ばかりの漕ぎ船に曳航されて、代官、手代、各村庄屋、才科（宰領）の乗船がしたがう。

『伊予名草』は岩城から松山までの動きを次のように記しています。

太守の御船岩木（岩城）に着きければ、それより一番のろしを立て、風早郡来島にて二番のろし（を）立て、それより御家中追々三つか浜（三津ケ浜）へまかり越し、和氣郡ごご島（興居島）にて三番のろしより御船場へ御迎えにまかり出、御船上がり…松山へ御入り込み…

江戸時代の日本の経済は関東地方は金相場、関西は銀建てなので米穀の値段は複雑に変動しました。こうした情報を適当な間隔の山頂と山頂をつないで「旗振り」によって通信していたことも明らかになってきました。その速度は新幹線の列車の速度に迫るスピードであったそうです。（『旗振り山』柴田昭彦著、ナカニシヤ出版）

無線通信が未開発の時期には、手旗による通信が重要視され、海軍の艦船や商船の輸送にあたる乗組員には、必須の学習科目とされていました。明治三十四年に創設された弓削海員学校（現弓削商船高等専門学校）でも必須の課目とされていました。そのはるか以前から烽火による通信が実施されていたわけです。その烽火による通信作業を現場で進めたのは、どこの人たちだったのでしょうか。

（高井神灯台）

弓削商船高専・岡山商科大学名誉教授
上島町文化財保護審議会　顧問
村上貢　稿